



現場から（最近のニュースから）

新しく出発するときに



新しい年が始まりました。年末年始には、故郷に帰ったり、仕事を休んで久しぶりに人と出会ったり、楽しく過ごされた方も多いでしょう。ところで、年末年始に限らず、人に会ったり大勢の人の中にいて時間を過ごしていて、ひとりであるのではないのに、ふと「孤独」を感じることはなかったでしょうか。朝日新聞の天声人語の昨年の最後の日の記事に孤独について書いてありました。

年末の整理をしていた記事の筆者が、自分のスマホの整理もしたそうです。そして、スマホに残っていたつながりを示す記録を見ていて、不思議な感覚に陥ったということです。メッセージが来て会った人、メールでやりとりを重ねた人、友人とのチャット…そこで、数々の関係があったのに、何か寂しく、孤独すら感じたのだそうです。そこで、ガルシア・マルケスの『百年の孤独』を本棚から引っ張り出して読んだということです。書かれたのは半世紀以上前だそうですが、意外なほど現代的で、家族愛や政治的な対立、戦争と、百年の時間軸で描く関係は非常に濃厚なのに、それでも人々の孤独は深いということです。マルケスが言う孤独とは、関係性がないから感じるものではなく、つながっているのに理解や共感が深まらない悲しさではないかと記事の筆者は言います。それは、つながることがこれほど容易で大量化した今も続いているので、スマホを見ていて孤独を感じたのだらうということです。（12 月 31 日朝日新聞天声人語＜つながる時代の孤独＞より）

人はつながりを求めます。そして、自分がつながれる人がいないと孤独を感じます。しかし、最近では、どこにいても簡単につながることができるのに孤独だというのは、なぜでしょうか。相手に理解してもらえない、共感が深まらないからだと言っていますが、自分を理解してもらって、共感してもらえたら孤独は消えるのでしょうか。理解、共感を求めるゆえか、全面的に理解して、共感してくれる AI が現れて、その AI と結婚したり、その AI のことばを聞いて AI の世界に行きたいと自殺した人もいますので、人は自分を理解してくれる人を求めているのは確かです。

しかし、どんなに理解してもらって、共感してもらっても、実は孤独の感情が消えたように思えるだけで、実際の孤独の原因は消えていません。なぜなら、人は人（または、AI）からの理解や共感では満足できない深い孤独を抱えた存在だからです。その孤独はいったい何であるかを知るとき、その孤独を根本的に満たすことができます。たとえだれからの理解や共感がなくても、心は安らぎ満たされるために、人間にある孤独はいったいなにか、それを満たすのは何かについて知る必要があります。新しい年、根本的に心が満たされることを知った新しい自分になって出発しませんか。



救いの道

だれでも幸せになって、うまくいきたいのに、なぜ人生がこんなにも苦しくてつらいのでしょうか。

予期せぬ事故にあい、やることなすこと、すべてうまくいかず、会社ではやりがいどころか、仕事と人に疲れるばかりです。学校は、もはやいじめの天国になりつつあります。家庭内は冷たい風が吹き、一つ屋根の下でばらばらになり、実際に崩壊しているところも少なくありません。そのうち体は病気になる、心も病んでしまい、眠れない夜が続きます。お酒や薬に頼り、ギャンブルや快楽に走ってみても答えはありません。わらにもすがる思いで占いをし、おふだやお守りをつけてみますが、解けそうにもなく、どんどんひどくなるだけです。

ときには、表では他人がうらやむほどの成功をおさめたのに、裏は穴が開いてもれていくし、隠れた問題でなげき、ため息をつきながら人生のむなしさを感じています。胸にはぽっかりと穴が開いて、埋められません。とても憂うつになって、時々、自殺の衝動にかられます。幻聴や幻覚に悩まされるときもあります。

なぜこうなったのでしょうか。



それは、人が神様を離れているからです。魚が水を離れ、木は土から根を放り出すと枯れて苦しみ死んでいきます。人は神様に会って神様とともにいるべきたましいを持つ存在です(創世記1:27)。ですから、神様と出会う時、すべての問題が解決され、新しい人生が始まります。しかし、人は罪を犯して神様を離れてしまい、二度と神様に会うことができなくなりました。そのときから、目には見えない暗やみの力が、人を運命の力に閉じ込めて、苦しめて滅ぼしているのです。それで、どんなに暴れても抜け出すことができません。どんどん疲れはてて倒れるだけなのです。



神様は苦しみの中にいる人を愛し、この運命の泥沼から抜け出して、神様に会うことができる道を開いてくださいました。その道がイエス・キリストです。イエス・キリストが罪人の私たちの身代わりとなって、十字架を背負い、すべての罪を赦してください(ローマ5:8)、私たちを苦しめていた暗やみと呪いの勢力を完全に打ち砕いて勝利なさいました(1ヨハネ3:8)。そして言われます。「わたしは道であり真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれ一人として神に会うことはできません」(ヨハネ14:6)イエス・キリストは神様に会う道となりました。「疲れて重荷を負っている人はわたしのところへ来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます」(マタイ11:28)と私たちを招いておられます。



もうこれ以上、苦しみの人生にとどまっている理由はありません。道であるイエス・キリストを信じることで、神様に会うことができます。「まことに、まことに、あなたがたに告げます。わたしのことばを聞いて、わたしを遣わした方を信じる者は、永遠のいのちを持ち、さばきに会うことがなく、死からいのちに移っているのです」「この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとされる特権をお与えになった」だれでもイエス・キリストを救い主として信じ、心に迎え入れれば救われます。下の「受け入れのお祈り」を通してイエス・キリストを心に迎えることができます。

「愛の神様、神様の驚くべき愛と、救いの計画を感謝します。今、私は罪人であることを認めて、悔い改めます。私の心の扉を開いて、今、イエス・キリストを私の救い主、私の神様として受け入れます。私の罪を赦してください、私を救ってくださいましたことを感謝いたします。これからは、神様のみこころに従って生きる者にしてください。イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン」